



【千葉日報社長賞】

さなだ りか
真田 理香

真田 大介様

いつもありがとうございます。

また、あの夢を見ました。生家で暮らしていた時に体験した実の両親からの虐待。40を過ぎても、また忘れた頃に、あの日々の悪夢を見ます。

うなされる私を、隣で、まだ半分眠っているようなあなたは、滑らかなその手で、トン、トン、トン、トンと優しく静かに、私の身体をたたいてくれます。そのリズムに私は漸く安眠を得ることができます。

一人息子の凌弥が、自慢の息子に育てくれたのも、あなたのお陰です。凌弥が生まれてきてくれた時に、

「この子を、自分と同じような目に遭わせてしまうかもしれない。」と不安を口にした私に、あなたは「大丈夫だ。俺がそんなことをさせない。」と力強い言葉をかけてくれて、その言葉通り、ずっと私を支え続けてくれました。

そんなあなたに、これ以上の我儘を言うのは心苦しいのですが、できるなら私より先には逝かないで下さい。あなたの居ない世界に一人残されることなど、きっと私には耐えられないでしょう。

出会ったあの頃から、私の気持ちは変わりません。これからも、あなたの隣で笑って2人で過ごしていきたい、そして、生まれ変わっても再び、あなたの妻になりたい、それが私の一番の願いです。

(富山県 / 44歳 / 女性 / 会社員)

長年私を支え、笑顔にしてくれる夫に対して、感謝を口に出して伝えるのが恥ずかしかったので、この機会に手紙で私の気持ちを伝えられたらいいなと思いました。